

## 巻頭言

## “IT”時代における情報メディアセンターの発展

富永健一



武蔵工業大学環境情報学部に入學した1年生を真っ先に待ち受けているのは、「情報メディアセンター」と呼ばれている2号館の建物である。なぜなら、当学部における1年生と2年生の必修の授業科目としてカリキュラムの中核を占めているのは、進展する現代社会の「情報化」と「グローバル化」にそれぞれ焦点を合わせた「情報リテラシー」教育と語学教育であり、それらはどちらも情報メディアセンターで学ぶ科目だからである。

情報メディアセンターには、コンピューターがずらりと並んだ「情報リテラシー」演習室と、語学学習機器がずらりと並んだ「ランゲージラボ」教室、および教壇上に複数のコンピューターと大きなスクリーンを備えた「プレゼンテーションラボ」、それに図書館がある。情報メディアセンターは、当キャンパスの心臓部であると言ってよい。環境情報学部の学生は、この建物にある諸施設と親しむことなしには、この学部で勉強していくことはできない。例えば、授業から学生のサークル活動にいたるまで、当キャンパスで情報を得るには、“swan”という名の学内向けポータルサイトをコンピューター画面に呼び出す必要があるし、授業で提出を要求されるレポートを書くにも、また3年生と4年生がゼミ（事例研究・卒業研究）での発表を準備するにも、情報メディアセンターの設備が不可欠である。

いまから4年前、1997年4月にわが環境情報学部が誕生したときに、われわれ関係者が最も誇りとしたのは、当キャンパスではすべての学生が情報メディアセンターの最新のインフラを使って情報リテラシー教育を受けることができる、ということであった。もちろん情報リテラシー教育が普及した現在では、どの大学も多かれ少なかれこのような設備をもつようになってはいない、というのが実状である。当学部は今年最初の卒業生を送り出したが、不況期にもかかわらず当学部生の就職率が99%を達成したのも、情報メディアセンターのインフラを全学生がフル活用して学んだ成果が、企業に受け入れられたことを示している。

コンピューター・ネットワークの普及が急速に進んだのは1990年代以来のことであったが、2000年になってから“IT”（情報テクノロジー）という語が爆発的に広がった。それと歩調を合わせて、わが学部も今年（2001年）4月からスタートする大学院環境情報学研究科修士課程に「情報システム」領域を設置したし、来年（2002年）4月から「情報メディア学科」という名の第2学科を開設する計画で、目下その準備を進めている。第2学科の名称は、結果的に「情報メディアセンター」と同じになった。もちろん、「情報」の語は第1学科（環境情報学科）にもついているのだから、「情報リテラシー」科目はあくまで両学科共通の授業科目であって、決して情報メディア学科だけのものではない。しかし情報メディア学科の新設で、情報関係の教員の増員が予定されているし、今年3月には上記、大学院の設置に伴い2号館の増築も完成した。このようにして、わが学部における情報メディアセンターの重要性は今後ますます高まっていくだろう。そしてそれにもなって、本『情報メディアセンタージャーナル』の執筆陣もまた、今後いよいよ充実していくことを確信するしだいである。